

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した家庭的な環境づくりへのサービス理念を全職員で考え方理解とし取り組みとしている。又、毎日を穏やかに過ごして頂く事も基本理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に付く場所へ掲げ、毎日の申し送りや定期的に開催している職員全体会議の場においても、常に理念を念頭において日頃のサービス内容を検討し、実践に向けての取り組みとしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	誰が見ても見やすく、わかりやすい場所に掲示し、又来所者の説明も行っている。家族や地域の人達への理解が得られるよう、文書にて送付し取り組みとしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	入居者のプライバシーに配慮しながら、地域の行事等に参加しやすい環境を整え、又参加している。地域の方や知人の方が入居されている事もあり、訪問・慰問ボランティア等を受け入れている。	○  どんどん地域参加・交流を持つ事で、顔なじみを増やし、訪問して頂き、楽しい時間づくりに努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価意義を理解し、自己評価を職員全体で行い、共感・共有・統一する事でケアの向上を図っている。外部評価については、結果を基に改善に向けて話し合いの場を作り、より良いサービス提供に努めている。</p>	
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、ホームでの取り組みについて説明、サービス提供、状況の報告を話し合い、意見交換をしている。又、意見と地域の情報を得る事で、サービスの向上につなげている。会議に参加している入居者・家族への配慮も行っている。</p>	
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者にグループホームの疑問点や問題点の指導を仰ぎ、質の向上に取り組んでいる。自己評価・外部評価の結果を提出し報告の一環としている。</p>	
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加し、その後内部研修を行い、職員全員で学び理解を深め、必要な時に対応・活用できるように努めている。</p>	
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等で虐待防止について学び、虐待防止へのマニュアルを作成し、事業所内で話し合いを行い、絶対的な防止に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時には充分な説明をし、理解、納得、書面にて同意を得ている。退居時には、状態に応じて関係機関の方々との情報交換・提供を行っている。	
11	<input type="checkbox"/> 運営に関する利用者意見の反映 <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	いつでも話せる雰囲気作りしている。又、投票箱を設置し運営に反映させている。苦情の際は速やかに改善に向け取り組んでいる。	
12	<input type="checkbox"/> 家族等への報告 <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時、受診の内服変更・報告を行っている。金銭管理については預かり金出納帳に記入し、月1度、家族の確認印、サインを頂いている。レシート、領収書の原本は送付し、領収書のコピーは綴り保管している。	
13	<input type="checkbox"/> 運営に関する家族等意見の反映 <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	投票箱を設けたり、家族の方々が話しやすい雰囲気作りに心がけている。又苦情があった場合は、ホーム内に説明を貼り出している。	
14	<input type="checkbox"/> 運営に関する職員意見の反映 <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させていている</p>	月1回の全体会議や個別面談にて意見、苦情、不満等を聞く機会を設け反映させている。	
15	<input type="checkbox"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者や家族の状況変化に応じて柔軟な勤務体制が取れる人員配置をしており、職員の協力、理解、了解を得ながら調整に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職等は利用者に説明をしている。個別担当に不安を与えないよう引継ぎを行い、入居者へのダメージの軽減を図っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が外部研修へ参加する機会を確保し、その後内部研修にて周知徹底を図る事で職員の意識の高揚・ケアの質の向上に努めている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での交流や勉強会又他グループホームとの研修の機会を設ける事で交流を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後も他施設への機会づくりをし、交流を深められるように取り組んでいく。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦階を年3～4回開いており、交流を通じて話し合う機会づくりとしストレス解消に努めている。又個別面談により、受容、共感、共有に努めている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	職員の心身の健康状態にも配慮している。各自1人ひとりが向上心を持って働けるような環境づくりへの気配りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受ける際は、家族や本人が希望するニーズを把握し、信頼関係を築く事を意識し対応している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援に柔軟に対応している。出来ない事については、他機関に相談したり、紹介等連携を図り対応に努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の事を理解し、本人の視点からこの場に馴染める雰囲気作りを工夫している。職員や他入居者との交流が図れるよう努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いをくみ取り、互いに支え合いながら介護するという意識ではなく、たまたま認知症という疾病を抱えた一人ひとりの人生にお付き合いし、支え合うことが出来る関係作りに努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族相互の思いを受け入れ、共に支える関係づくりに努めている。家族との連絡ノートを作成し情報共有している。		
26 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常的な生活状況を面会時に報告し、疎遠になっている家族には、電話・通信により近況をお知らせしている。		
27 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人・場所などを聞き、協力者である家族の方からの情報を把握することにより、その人を知り支援出来るように努めている。		
28 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりが思いを共感し、孤立しないよう交流を通じ支え合えるよう努めている。		
29 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、福祉施設への相談を受ける事もあり、家族との良い関係が継続できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意思尊重を尊重し、日常の会話からの希望の把握に努めている。家族からの情報収集を行っている。</p>	
31	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族、関係機関等からアセスメントを把握し、利用者のプライバシーに配慮して今後のケアに活かしている。</p>	
32	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日の生活リズムを通じ、心身状態の把握に努めている。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成時は、利用者・家族の思いを反映させ、現在の問題を踏まえて作成している。</p>	
34	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にまた状況変化があった場合などカンファレンスを開き見直しとしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日常の様子・身体状況を記録し、アセスメント作成・職員同士の気付きを介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族との外出・外泊時と、場合によってはホームへの泊まりも可としている。ニーズに合わせて柔軟な対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームでは年2回、総合消防訓練を実施している。本人の意向に応じて地域の行事・活動に進んで参加している。		
38 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要希望に応じて、理美容サービスを利用・馴染みの所への希望の場合、利用できるよう付き添い外出している。		
39 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者を長期的にケアしていく為にも、運営推進会議を通じて地域包括支援センターと協働している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関を受診し、主治医の指示・アドバイスを受け支援している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	一人ひとりに応じた指示・アドバイスは治療を受けている医師より確保されるよう支援している。		
42	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間相談できる体制にあり、気軽に相談しながら健康管理に努めている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時、状態に関する情報交換を密にし、早期退院に向けた話し合い、安心した生活を送れるように支援している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の対応については、入居時に説明している。又、日常の健康管理、急変時の対応については機会ある事に話し合いを行っている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者や家族の思いを考慮した上で医療機関・家族との連携を図りながら、変化に備えて検討や準備を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り込む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを防ぐ為、家族に協力してもらい、話し合いや情報交換により、自宅居室に近い空間や本人の意にかなう様に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを尊厳し、個人情報の保護に努めており、職員間での統一も行っている。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との人間関係により、本人の望むものを引き出し、支援できるように努めている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムを大切にし、その人のペースを優先し対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望や個性・好みを生かし支援している。又、個人の馴染みの理容店へ行けるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの残存能力を生かし、可能な限り職員と一緒に準備や後片付けをしている。又、一緒に食事する事で楽しんでいる。		
52 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間を設けて、本人の好む飲み物やおやつを用意できるように支援している。又パンの購入(業者)が毎週来所しており、各自好きなパン購入出来ている。		
53 ○気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者個人の排泄パターンを把握し、おむつを最小限、又は、自立へ向け支援している。又トイレ排泄への支援を行っている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々に合わせた入浴方法や意向を取り入れて対応し支援している。身体の状態や入浴前後の水分補給に気を配っている。		
55 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の起床・就寝時間に合わせている。又、日中軽運動を支援し、日中の休息や夜間の安眠へ気を配っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、個人に合った役割により、楽しみ、生きがいを持って頂けるよう支援している。又、個人の要望を取り入れ外出する事で気晴らしして頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 ○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力や希望を考慮し金銭管理している。買い物や行事外出では、見守りによりお小遣いを持ち、買い物を楽しんで頂いている。		
58 ○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、積極的にドライブや散歩に出掛け、気分転換が図れるよう支援している。		
59 ○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者を希望の場所へ行けるよう行事を企画し、身体状態や距離等を考慮し支援している。又個別に希望の訪問場所の付き添い支援も行っている。		
60 ○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の連絡手段を本人の希望に添つても出来るよう考慮し支援している。		
61 ○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者への面会の際は、団らんの場所と飲み物を提供し楽しんで頂き、いつでも訪問できるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
62 ○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわないという事を職員全員周知徹底を図り、マニュアルを作成し身体拘束のないケアをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠しない事を職員全員理解し、外出傾向が見られたら付き添う等の支援をしている。		
64 ○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜を通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一日を通して入居者を見守り、様子を把握しながら安全に配慮している。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、利用者の手の届かない場所や所定の場所へ保管し、鍵をかけて危険を防止している。		
66 ○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止への学習・研究への参加で知識を学び、一人ひとりの状態に合った防止を共感・共有とし記録としている。		
67 ○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応は、マニュアル化して明記しており、又、応急手当に救急救命の研修を受講し、内部研修として行っている。		緊急時、早期対応が行えるよう内部研修の機会を多く取り入れるようにしていく。
68 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回訓練を行い、避難場所の確認をする事で適切な避難方法を身に付け行えるようにしている。又、災害発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で話し合っている。火災に関しては、地域の消防団(分団)との協力体制が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 ○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクを把握すると共に、契約時家族に説明し理解して頂いている。状況の変化に伴ない、適宜見直しを全職員と話し合い共有し対策に努めている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
70 ○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝と体調不良時等のバイタルチェック。常に利用者の言動や状態に注意し、変化があった際は対応し記録に残し、全職員が把握、情報共有の徹底、受診の際、ドクターに状態を報告し、又、家族に受診結果を報告している。		
71 ○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用して頂いた際、服薬チェック表にスタッフ印を押し、全職員が共有し、誤薬のないように支援体制をとっている。又、服薬変更等にかかわらず、受診ノート・記録・申し送り等で全スタッフが情報を共有できるようにしている。		
72 ○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝バイタルチェックの際に、排泄チェックを行なっている。食材の工夫・レクリエーションやラジオ体操等、軽運動を実施し、又水分強化・腹部マッサージなどにより、できるだけ自然に排便できるように工夫している。		
73 ○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けや一人ひとりの残存機能を活用しながら見守り、介助支援を行っている。又、うがいや水の吐き出し困難な利用者に対しての口腔ケアとして、吸引機能付き歯ブラシを使用し介助にてケアを行っている。又週3回義歯を洗浄剤につけてのケアも行っている。		
74 ○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成しており、栄養バランスに配慮している。又、毎食時(水・お茶)、10時(牛乳)、15時(緑茶)にて水分補給が確保できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 ○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成し、予防・対処を行っている。又、定期的に内部研修を行い、スタッフの意識向上を図る事で感染予防に努めている。		
76 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の清掃を定期的に行い、チェック表を作成し対応している。食材は新鮮な物を使用し使い切り、作り置きは一切していない。食器・調理器具等は、清潔・衛生の保持に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
(1) 居心地のよい環境づくり			
77 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチや花を植えたプランターを置いている。又、季節感を感じる飾り付けを利用者の方と一緒にを行い、楽しさを共有できるようにしている。		
78 ○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・ラジオ等の音量、介護者の声量、履物の音、室内の明るさ等に気を配るようにしている。又、季節感を感じられる飾り付けをしたり、観葉植物等を置くなどして居心地の良い空間にしている。		
79 ○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が会話を楽しめるようにソファーや椅子・テーブルを置き、くつろげるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 ○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人に馴染みのある物や、身だしなみを整える物を置いたりしている。各居室には、施設内的一日の流れがわかる様に時計を置いたり、日程表や曜日・日付・季節がわかる様カレンダーを貼っている。		
81 ○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度・湿度計にて行うが、利用者の体熱温度や状況・状態に合わせ換気をこまめに行っている。湿度調節に加湿器を使用し、ホール・廊下・希望される利用者の居室に設置している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
82 ○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、両側に手摺りを設置している。車椅子は常備あり、施設内は利用者が使いやすいように工夫している。		
83 ○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の居室ドアには顔写真を貼り混乱を防止したり、トイレ・洗面所などには表札を付けて工夫している。		
84 ○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者が歩行する際、転倒防止等を考えて廊下には物を置かないようにしている。又、活動や軽運動の邪魔にならないように工夫している。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		取り組みの成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しづつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 介護力の強化、ホームの質の向上に向け、外部研修・内部研修・資格取得を目指しています。
- ・ 運営推進会議をきっかけとし、地域に根ざした生活支援から、町内の行事・イベント等への参加により、生活にメリハリをつけ、月別行事により外出の機会を多くする事で生活の活性化を図る工夫を行っています。